



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月15日

上場会社名 株式会社FRONTEO 上場取引所 東
 コード番号 2158 URL <https://www.fronteo.com/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)守本 正宏
 問合せ先責任者 (役職名)経理財務統括部長 (氏名)國枝 宏美 (TEL)03(5463)6344
 四半期報告書提出予定日 2022年8月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	2,111	△31.2	△167	—	△101	—	△345	—
2022年3月期第1四半期	3,067	4.6	598	—	611	—	472	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 194百万円(△60.5%) 2022年3月期第1四半期 491百万円(296.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	△8.79	—
2022年3月期第1四半期	12.06	12.04

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	12,396	6,369	50.2
2022年3月期	11,825	6,440	53.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 6,228百万円 2022年3月期 6,308百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,200	△15.8	200	△88.4	190	△88.7	△450	—	△11.45

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期1Q	39,314,562株	2022年3月期	39,314,062株
2023年3月期1Q	696株	2022年3月期	696株
2023年3月期1Q	39,313,800株	2022年3月期1Q	39,207,166株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは「Bright Valueの実現～記録に埋もれたリスクとチャンスを見逃さないソリューションを提供し、情報社会のフェアネスを実現する～」という企業理念のもと、独自開発の人工知能(AI)エンジン「KIBIT(キビット)」「Concept Encoder(コンセプトエンコーダー)」及び「Looca Cross(ルーカクロス)」の3本を柱とする高度な情報解析技術を駆使し、祖業である国際訴訟支援、不正調査から製造、金融、小売、流通、そして医療分野といった様々なフィールドで、必要かつ適切な情報に出会えるフェアな世界の実現及び社会課題の解決に貢献しております。

ライフサイエンスAI分野につきましては、Medical Intelligence(メディカルインテリジェンス)領域において、第19期第3四半期連結累計期間よりアクセリード株式会社(以下「アクセリード」)と、AIを用いた医薬品開発におけるターゲット分子のポテンシャルを解析する共同事業「Druggable Target 1000」を開始しました。本プロジェクトは、創薬アプリケーションの機能向上が寄与し、当初想定より早く当第1四半期連結累計期間に完了し、次のステージに向けた検討を開始しております。ドラッグディスカバリー事業においては、論文探索を効率化する「Amanogawa(アマノガワ)」、分子や遺伝子の関連性を可視化する「Cascade Eye(カスケードアイ)」、そしてターゲット分子の科学性評価など複雑な評価指標をスコアリングする「LiGALILEO(リガリレオ)」の3つのアプリケーション全てについて順次バージョンアップを行いました。今後はこれらのアプリケーションを通じたサービスを更に拡大するとともに、新薬開発において最も重要なプロセスの一つとされるターゲットの選定や再評価など、AIを中核とした新たな創薬ソリューションを提供し、候補化合物解析の受託など、創薬ビジネスの拡大を目指します。

Medical Device(メディカルデバイス)領域においては、「会話型認知症診断支援AIプログラム」の臨床試験が終了し、収集したデータの解析や薬事承認申請のための準備を進めております。また「骨折スクリーニングAIプログラム」、「うつ病診断支援AIプログラム」及び「統合失調症診断支援AIプログラム」など、複数のプログラムの開発が進展しましたが、今後更なる開発パイプラインの拡充を図って参ります。また、AI医療機器の開発プロセスで収集された質の高いデータセットや開発ノウハウを生かし、大きな社会課題となっている認知機能低下、うつ、転倒転落及び離職など、医療機器分野だけでなく、ヘルスケア分野(非医療機器市場)におけるAIアプリケーションの開発を進め、民生品市場における新製品の開発、上市を進めて参ります。

ビジネスインテリジェンス分野につきましては、当第1四半期連結累計期間の売上高は比較的堅調な立ち上がりとなりました。企業のDX推進により市場の拡大が見込まれる中で、コンプライアンス対応のための投資ニーズも高くなっております。このような環境を背景に、当社AI技術の優位性をご評価頂いた複数の企業からメール&チャット監査システム「KIBIT Communication Meter(キビット コミュニケーション メーター)」の受注が増加いたしました。また、2022年4月には、金融機関の“お客さまの声”を解析し、不祥事の予兆発見や顧客ロイヤルティの向上を実現する「WordSonar for VoiceView(ワードソナーフォーボイスビュー)」の提供を開始いたしました。引き続き大型案件の獲得及びパイプラインの拡充に努めるとともに、顧客ニーズに合わせた新製品の開発を進めて参ります。また、営業体制の強化を目的とした人的投資につきましては、第2四半期連結累計期間での体制整備を目指し、引き続き進めて参ります。

経済安全保障関連分野につきましては、2022年5月に経済安全保障推進法が成立し、官民での経済安全保障への関心が高くなっております。各社検討を開始した初期の段階であり、各社のニーズを把握し、的確なソリューションを提供することで事業の成長を図って参ります。

リーガルテックAI事業においては、前期は、上半期は複数の大型案件を獲得することができ好調だったものの、下半期以降、当第1四半期連結累計期間も含めて大型案件の受注は低調となりました。加えて、当社米国子会社が2022年5月に第三者による不正アクセスを受けたため、同社のシステムを遮断して原因究明と影響調査を行う事態となりました。2022年6月17日には、外部への情報漏えいや顧客・関係者に影響を及ぼす被害は確認されていないこと、システムの復旧及び業務の再開を公表いたしました。その間、当社米国子会社は一部業務を行うことがで

きず、また、大型案件の受注活動も大きな制約を受けました。その結果、同事業の業績は大きく減速することとなり、前年同期比及び前四半期比で大幅な減収となるとともに、営業損失を計上いたしました。

各事業の当第1四半期連結累計期間の概況は以下のとおりです。

(AIソリューション事業)

ライフサイエンスAI分野では、Medical Intelligence領域においては、前述のとおりアクセリードとの共同事業「Druggable Target 1000」のプロジェクトが当第1四半期連結累計期間に完了し、収益を得ることができました。また、医療・医学専門情報を自動的に仕分けを行うシステム「Mekiki (メキキ)」、論文探索AIシステム「Amanogawa」も、順調に販売のための受注パイプラインを積み上げております。Medical Device領域においては、受託開発案件が堅調に推移しており、前期の売上高にはマイルストーン収益及び収益認識会計基準等の適用の影響額等の一時的な収益が含まれていた事を考慮すると、順調に拡大しております。

ビジネスインテリジェンス分野においては、企業のDX推進によるコンプライアンス対応のニーズにより、複数の企業で「KIBIT Communication Meter」が導入されました。

その結果、AIソリューション事業全体の売上高は530,238千円（前年同期比2.2%減）となりました。営業損益につきましては、人的投資を推進したことや間接部門に係る費用143,284千円が配賦されたこと等により、営業利益2,223千円（前年同期比98.6%減）となりました。

サービスタイプ別の売上高の概況は下表のとおりです。

サービスタイプ別		(単位：千円) 計
AIソリューション事業	ライフサイエンスAI	142,059 (274,184)
	ビジネスインテリジェンス	385,357 (259,610)
	海外AI	2,821 (8,304)
AIソリューション事業売上高 計		530,238 (542,099)

() は前第1四半期連結累計期間の実績

(リーガルテックAI事業)

リーガルテックAI事業は、eディスカバリサービスにおいて大型案件の受注が低調に推移したことに加えて、米子会社が第三者による不正アクセスを受けたことにより、一部業務を行うことが出来ず、売上高が大幅に減少いたしました。一方で日本国内のセキュリティ調査案件の受注は増加しております。

その結果、売上高は1,581,180千円（前年同期比37.4%減）、売上の低下に伴い169,852千円の営業損失（前年同期は434,671千円の営業利益）となりました。

サービスタイプ別の売上高の概況は下表のとおりです。

(単位：千円)

サービスタイプ別		計
eディスカバリサービス	Review	378,475 (1,069,336)
	Collection, Process	168,723 (276,077)
	Hosting	736,345 (974,453)
	計	1,283,543 (2,319,867)
フォレンジックサービス		297,636 (205,494)
リーガルテックAI事業売上高 計		1,581,180 (2,525,362)

() は前第1四半期連結累計期間の実績

顧客ホームカントリー別の売上高の概況は下表のとおりです。

(単位：千円)

顧客ホームカントリー別	計
日本・アジア	955,975 (1,115,773)
米国・欧州	625,206 (1,409,589)
リーガルテックAI事業売上高 計	1,581,180 (2,525,362)

() は前第1四半期連結累計期間の実績

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高2,111,418千円（前年同期比31.2%減）、営業損失167,629千円（前年同期は598,883千円の営業利益）、経常損失101,909千円（前年同期は611,413千円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失345,460千円（前年同期は472,916千円の親会社株主に帰属する四半期純利益）と前年同期を下回る結果となりました。なお、不正アクセス対応のために情報セキュリティ対策費（引当金繰入額を含む）として特別損失214,851千円を計上しておりますが、一定の金額の範囲内において保険の適用対象になる見込みです。ただし、詳細については保険会社と協議中であり、保険が適用される項目については現時点で未定であります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は、前連結会計年度末と比べて571,564千円増加し、12,396,694千円となりました。流動資産は、前連結会計年度末と比べて412,079千円増加し、6,353,480千円となりました。各種税金の納付や配当金の支払い等により現金及び預金が1,067,699千円減少した一方で、その他に含まれている前払費用の増加と、米国子会社の資産が為替の影響を受けたことにより増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比べて159,485千円増加し、6,043,214千円となりました。これは主に、為替の影響でのれんが116,438千円、顧客関連資産が104,158千円増加したことによるものであります。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末と比べて642,590千円増加し、6,026,789千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比べて1,014,455千円増加し、3,614,297千円となりました。これは主に、借入により短期借入金が1,000,000千円増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比べて371,865千円減少し、2,412,492千円となりました。これは主に、返済により長期借入金が293,296千円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末と比べて71,025千円減少し、6,369,905千円となりました。これは主に為替換算調整勘定が572,717千円増加したものの、親会社株主に帰属する四半期純損失、配当による取崩により620,653千円利益剰余金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期連結業績予想につきましては、本日、別途開示いたしました「特別損失計上、業績予想の修正及び配当予想の修正（無配）に関するお知らせ」をご参照ください。

尚、新型コロナウイルス感染症の業績に与える影響につきましては、軽微と想定しております。

(注) 業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確実な要素を含んでおります。

実際の業績等は、今後様々な要因によって記載内容と異なる可能性があることを予めご承知ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,461,309	2,393,609
売掛金及び契約資産	1,830,228	1,611,828
商品	86	250
仕掛品	24,443	6,249
貯蔵品	2,302	2,521
その他	700,473	2,426,094
貸倒引当金	△77,441	△87,073
流動資産合計	5,941,401	6,353,480
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備（純額）	61,176	58,004
工具、器具及び備品（純額）	276,394	268,468
リース資産（純額）	13,212	13,645
使用権資産（純額）	353,450	326,200
その他（純額）	4,374	—
有形固定資産合計	708,608	666,319
無形固定資産		
ソフトウェア	1,016,614	964,282
のれん	1,403,025	1,519,464
顧客関連資産	1,278,802	1,382,961
その他	485,154	564,333
無形固定資産合計	4,183,597	4,431,040
投資その他の資産		
投資有価証券	853,414	805,714
差入保証金	120,932	124,752
繰延税金資産	5,269	5,529
その他	11,906	9,857
投資その他の資産合計	991,522	945,854
固定資産合計	5,883,728	6,043,214
資産合計	11,825,130	12,396,694

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	63,852	93,180
短期借入金	—	1,000,000
1年内返済予定の長期借入金	823,258	758,258
リース債務	367,550	392,967
未払金	193,530	414,937
未払法人税等	270,379	73,051
賞与引当金	125,538	71,013
訴訟損失引当金	84,990	68,946
情報セキュリティ対策引当金	—	19,852
その他	670,741	722,090
流動負債合計	2,599,841	3,614,297
固定負債		
長期借入金	2,374,792	2,081,495
リース債務	179,913	112,239
繰延税金負債	140,903	129,227
退職給付に係る負債	51,262	51,806
資産除去債務	35,233	35,328
その他	2,253	2,395
固定負債合計	2,784,358	2,412,492
負債合計	5,384,199	6,026,789
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,034,846	3,035,125
資本剰余金	2,771,993	2,772,272
利益剰余金	△140,203	△760,857
自己株式	△90	△90
株主資本合計	5,666,545	5,046,450
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	549,318	516,223
為替換算調整勘定	92,827	665,544
その他の包括利益累計額合計	642,145	1,181,768
新株予約権	132,239	141,686
純資産合計	6,440,930	6,369,905
負債純資産合計	11,825,130	12,396,694

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	3,067,462	2,111,418
売上原価	1,509,722	1,124,896
売上総利益	1,557,739	986,522
販売費及び一般管理費	958,855	1,154,151
営業利益又は営業損失(△)	598,883	△167,629
営業外収益		
受取利息	288	435
受取配当金	21,600	19,800
訴訟損失引当金戻入額	—	14,399
為替差益	—	38,272
その他	6,623	945
営業外収益合計	28,512	73,852
営業外費用		
支払利息	7,591	5,579
シンジケートローン手数料	1,325	1,250
為替差損	4,290	—
その他	2,775	1,304
営業外費用合計	15,982	8,133
経常利益又は経常損失(△)	611,413	△101,909
特別利益		
新株予約権戻入益	51,068	14,499
特別利益合計	51,068	14,499
特別損失		
固定資産除却損	2,162	0
情報セキュリティ対策費	—	196,010
情報セキュリティ対策引当金繰入額	—	18,841
特別損失合計	2,162	214,852
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	660,319	△302,262
法人税等	187,403	43,197
四半期純利益又は四半期純損失(△)	472,916	△345,460
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	472,916	△345,460

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	472,916	△345,460
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	28,098	△33,094
為替換算調整勘定	△9,114	572,717
その他の包括利益合計	18,984	539,623
四半期包括利益	491,900	194,162
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	491,900	194,162

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	AIソリューション	リーガルテック AI	計		
売上高					
外部顧客への売上高	542,099	2,525,362	3,067,462	—	3,067,462
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	542,099	2,525,362	3,067,462	—	3,067,462
セグメント利益	164,211	434,671	598,883	—	598,883

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

Ⅱ 当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	AIソリューション	リーガルテック AI	計		
売上高					
外部顧客への売上高	530,238	1,581,180	2,111,418	—	2,111,418
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	530,238	1,581,180	2,111,418	—	2,111,418
セグメント利益又はセグメント 損失(△)	2,223	△169,852	△167,629	—	△167,629

(注) セグメント利益又はセグメント損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。